

「かわせみ会」便り

令和5年 6月号
俳句を楽しむ会



季節多し！ 詠み人悩ます 季節到来！！

寒さ過ぎ、桜も散って、五月晴れの春本番となり、良い季語が多いだけに、俳句作りはかえって悩ます季節となりました。

季節の趣きを変え「写真を見て一句詠もう」も直接的、関連性を持たせた句が詠めるようになり、好評のようです。

3月～4度の詠句

- ・ 春爛漫WBC世界一
- ・ 溪流を止める花脊の花筏
- ・ 曲がり角旗が見守る一年生
- ・ 霾りて姿ぼやけし交野山
- ・ 妻CT医者の一言葉咲く
- ・ 巫女舞いて紅梅かかげ都守護
- ・ 入学しちゃんからさんへ中学子
- ・ 受験子に気を揉む親と爺婆
- ・ 老木に寄り添う椿花散らす

1月～2月度の詠句

- ・ 朝の道梅花にふわり綿ぼうし
- ・ 読み返す封書一通初便り
- ・ 去年今年忘れることも活きる術
- ・ 梅も咲き願う葉うか天満宮
- ・ 赤き実や小枝の集う寒すずめ
- ・ 小春日や畑に鋤打ち土香る
- ・ 鳴き交はす小枝に止まる鳥の恋
- ・ 陽がこぼれきらめく波の冬の川

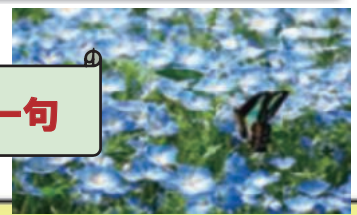
秀句としていち押し句

- ・ 寒暁の灯火に浮かぶ白い道
- ・ 腰掛けの昨夜の湿りや梅の園
- ・ 木の芽晴れ陽ざしに緩む臉かな
- ・ 群れは発ち水面にポツリ親子鴨

写真を見て一句



- ・ 舞い散りて波間
- ・ 漂う花筏
- ・ 琵琶の湖凧の水面に
- ・ 桜径
- ・ 水繋ぐ瀬田宇治淀の
- ・ 街うらら



- ・ ネモフィラや海空を
- ・ 染め映える丘
- ・ 廃校の花壇の隅に
- ・ ネモフィラ
- ・ ネモフィラの視野を
- ・ はみ出す春の園

担当幹事：鳥越・園田・由比浜・金子